資料４

マイ･タイムライン検討のための
ワークショップの進め方（案）

【～ワークショップ虎の巻～】

令和２年５月

マイ・タイムライン
実践ポイントブック検討会

目　次

【1】マイ・タイムラインの検討を進めるにあたって 1

■マイ・タイムラインとは何か 1

■段階的なマイ・タイムラインの検討 1

■ワークショップ形式による展開 2

【2】ワークショップ形式におけるマイ・タイムラインの取組 3

■マイ・タイムラインの検討の手順 3

事例１　地域住民を対象としたマイ・タイムライン講座 4

事例２　防災士等を対象としたマイ・タイムライン講座 8

【3】ワークショップを開催するまでの準備 11

■ワークショップの企画 11

■河川管理者等の有識者との調整 11

■会場の手配 11

■資料等の準備 12

■役割分担の設定 12

■参加者の案内・出欠確認 13

【4】ワークショップを支援する資料等の紹介 14

■マイ・タイムラインの概要を説明した動画 14

■マイ・タイムラインの骨格を作成できるツール「逃げキッド」 14

■「**逃げキッドの使い方動画**」 14

■逃げキッドのシナリオ本「**逃げキッド活用ガイド**」 15

【参考資料】逃げキッドの使い方概要 16

【1】マイ・タイムラインの検討を進めるにあたって

■マイ・タイムラインとは何か

マイ・タイムラインとは、住民一人ひとりのタイムライン（防災行動計画）であり、台風等の接近による大雨によって河川の水位が上昇する時に、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、住民自ら考え命を守る避難行動のための一助とするものである。その検討過程では、市区町村が作成・公表した洪水ハザードマップを用いて、住民自らの様々な**洪水リスクを「知る」**。そして、どの様な避難行動が必要か、またどういうタイミングで避難することが良いのかを**住民自ら「考える」**ことが重要である。さらには、家族と一緒に日常的に考えるものである。

■段階的なマイ・タイムラインの検討

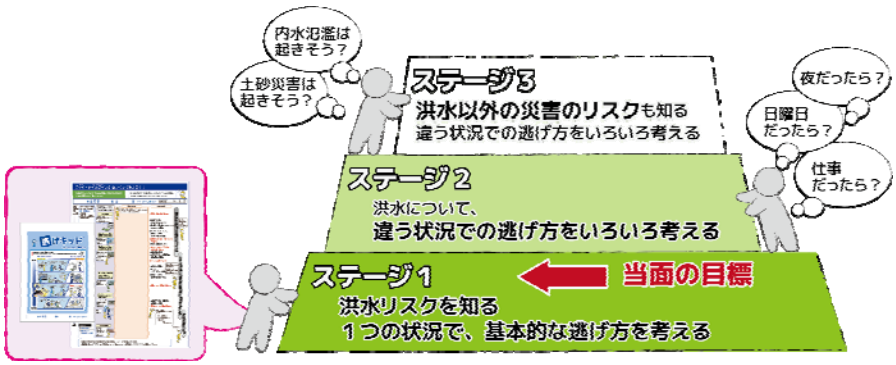
当面マイ・タイムラインの検討は以下のような段階で進めていくことを推奨する。

【ステージ１】: 洪水ハザードマップを用いて、自分自身の洪水リスクと行政等から出される防災情報、避難情報について知る。そして、想定する１つのシナリオに対し、自らの標準的な防災行動を考える過程を通じて、自らの避難行動をとりまとめる。

【ステージ２】: ステージ１で取りまとめた標準的な防災行動を、様々な状況（時間軸）を想定しながら、自身の防災行動をより実践的に自ら考える。

【ステージ３】: ステージ１対象外の洪水、内水氾濫、土砂災害などの降雨により一連で発生する災害に対して、防災行動を考える。

多くの住民は洪水リスクに対する認識が必ずしも高くなく、洪水災害の発生過程や被害様相をイメージできていないのが現状であるため、**当面は、【ステージ１】を主眼に広めていくこととし**、ここでは、【ステージ１】に関して記述する。なお、【ステージ１】の検討結果を基に、【ステージ２】・【ステージ３】の検討を住民一人ひとりが自ら考え進めていくことを促すことが必要である。



■ワークショップ形式による展開

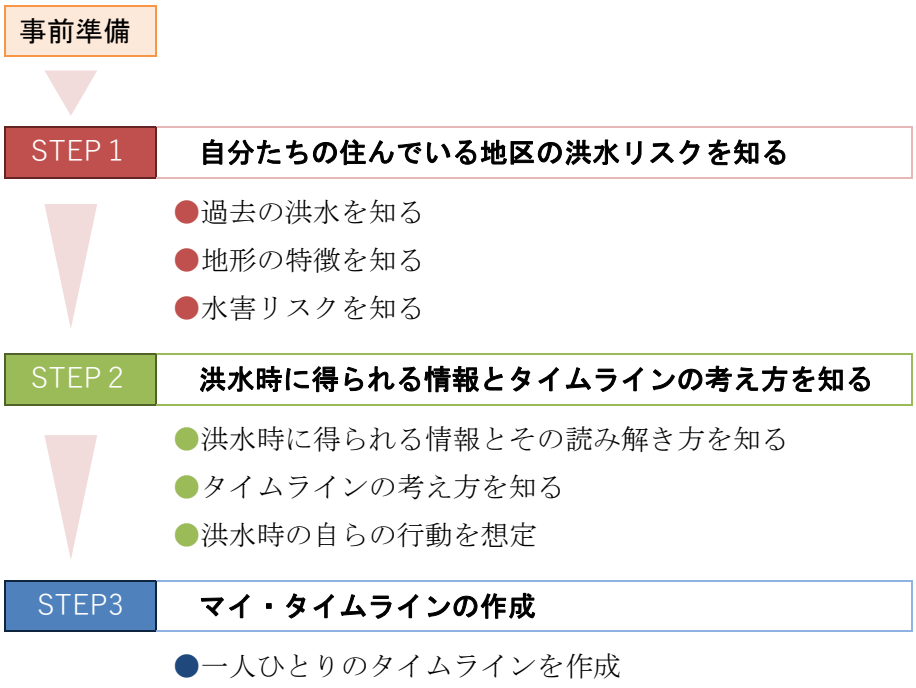
マイ・タイムラインの検討は、住民一人ひとりが自分自身の置かれている洪水リスクを踏まえ、自分自身に合った避難行動を自ら考えることを基本としているが、ワークショップを通じて他者と意見交換をすることにより、一人では気づかなかった「避難の備えやタイミング」「避難場所の選定や逃げ方」を知り得ることができる。このため、ワークショップ方式による検討の場合には、居住環境や洪水リスクが比較的似ている住民を同じテーブルにするなどの意見交換を活発にさせるような工夫が望ましい。

写 1 他者の意見を聞いて、気づき、見直す
【ワークショップ形式】

【2】ワークショップ形式におけるマイ・タイムラインの取組

■マイ・タイムラインの検討の手順

検討対象者となる住民それぞれの洪水に関する知識・意識・経験が異なる中で、実践的にマイ・タイムラインの検討を進めるために、検討担当者は、以下の 3 段階の手順で検討が進むよう取り計らうことを推奨する。

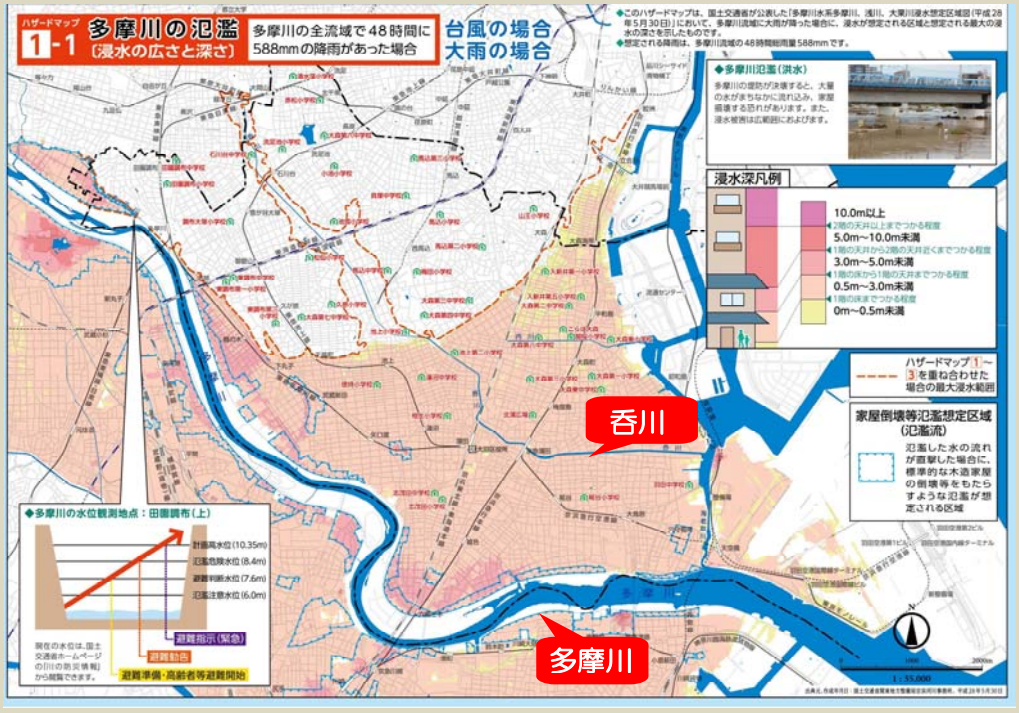


事例１　**東京都大田区における事例**

地域住民を対象としたマイ・タイムライン講座

概要

大田区には、大河川である多摩川の他に区の中央を呑川が流れており、想定しうる最大規模の降雨により多摩川が氾濫した場合、区内の約６割が浸水し、大きな被害が想定されている。区民自身が命を守るために「自分の逃げ方」として、「マイ・タイムライン」を作成しておくことは非常に有効であるので、大田区の特別出張所の管轄別（１８地区）で講習会を開催した。講習会では、「逃げキッド」を用いて多摩川が氾濫した場合を想定したマイ・タイムラインの作成を行った。



【補足】

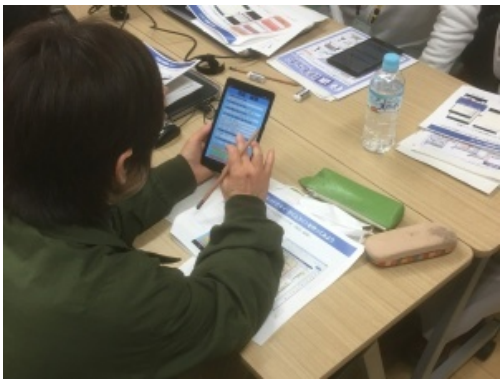
大田区では、多摩川の氾濫を想定したマイ・タイムラインの作成講座を実施したが、次のステージとして、呑川などの中小河川や内水被害等などの降雨により一連で発生する災害に対して、防災行動を住民自ら考えてもらうことが必要であることを参加住民に促している。

取組概要

取組主体　：大田区
対象　：大田区民
取組参加機関：大田区、外部講師
参加人数　：約 50 人（1 地区）

当日の流れ　　総時間：２時間３０分

	講座内容	支援の方法・ポイント等
9:30 ～ 9:50	**1.川が氾濫したらどうなるのか？を知る** **2.自分の近くで川が氾濫するようなことが起きるかを考える**	
	1.川が氾濫したら、どうなるのかをハザードマップや水害の写真や動画等を使いイメージさせる。 2.自身の居住地の近くで、川や水路が溢れそうな場所があるのか？を考える	◇水害のイメージは、ハザードマップで自身の居住地の浸水の有無の確認を促す ◇水害の動画を放映し、平面的な情報から水害の恐ろしさを伝える。 〔国土交通省関東地方整備局で提供されている関東・東北豪雨時の住民が撮影した動画を使用〕 ◇自身の居住地で水害のリスクが高い場所（近くの水路や川など）を想像し、数名に答えてもらう。
9:50 ～ 10:30	**1.自分たちの住んでいる地区の大河川の洪水リスクを知る** **・浸水深／浸水継続時間／家屋倒壊等氾濫想定区域の確認** **2.自身の洪水リスクと避難行動について考える**	
	1.ハザードマップを用いて、自分たちの住んでいる地区の大河川の洪水リスクを知る。	◇水害リスクが多数ある中で、多摩川を想定して講習会を進めていくことを説明する。 ◇多摩川の想定最大規模降雨に応じた洪水ハザードマップを用いて洪水リスクを自ら確認させる。 〔ハザードマップ使用〕 ◇居住地の浸水深を確認させ、数名に答えてもらう。

	講座内容	支援の方法・ポイント等
9:50 ～ 10:30	2.洪水リスクと避難行動について考える。	◇自身の浸水深を踏まえて、水平避難か屋内安全確保かを参加者に尋ねる。 ◇浸水継続時間の説明を行い、居住地の浸水継続時間を確認させ、数名に答えてもらう。 ◇参加者にどのくらいの時間なら居住地の上階で我慢できるか？などを質問形式で尋ね、他者との違いに気づく。 ◇家屋倒壊等氾濫想定区域の説明を行い、居住地の浸水継続時間を確認させる。 ◇上記を踏まえ、水平避難か屋内安全確保かを参加者に尋ねる。
10:30 ～ 11:00	**1.洪水災害と地震災害との違いを知る** **2.洪水時に得られる情報を知る**	
	1.洪水災害と地震被害の発生過程の違いを知り、タイムラインの有効性を伝える。	◇地震は突然発生するが、洪水は時々刻々と変化し、被害が拡大することを知ってもらう。 ◇時々刻々と変化する災害とタイムラインとの親和性を伝える。 〔避難勧告の発令に着目したタイムラインを使用〕
	2.洪水時に得られる情報と取得の仕方を知る。	◇洪水時に得られる情報を教え、実際に講座内で取得してもらう。 ◇自身が見るべき水位観測所の水位を自身のスマートフォンやタブレット等で確認してもらう。 

	講座内容	支援の方法・ポイント等
	1.マイ・タイムラインの作成	
11:30 ～ 12:00	1.自身の行動を考え、マイ・タイムラインを作成 2.他者との意見交換を実施し、マイ・タイムラインを修正	◇主な防災行動を時間軸で整理し、マイ・タイムラインを作成。 ◇作成したマイ・タイムラインを、数名に発表してもらう。他者の意見を聞くことで、自身の行動の見直しを行う。

現場での工夫

参加者が話しやすい雰囲気を作るために、ワークショップのはじまりに、「アイスブレイク」として住民同士で簡単な自己紹介の時間をとった。その際には、自己紹介に自身の好きな食べ物などを一つ付け加えて、紹介してもらうことで、行政主催の防災講座の堅苦しいイメージを変えることにもつながった。

事例２　**鬼怒川・小貝川流域の自治体における事例**

防災士等を対象としたマイ・タイムライン講座

概要

鬼怒川・小貝川減災対策協議会はマイ・タイムラインの更なる普及を図るために、防災士等を対象としたマイ・タイムライン講座を実施した。それらの講座を受講した方を、マイ・タイムラインリーダーとして認定し、マイ・タイムライン作成指導のための講習会で講師を務めることができる仕組みとしている。

取組概要

取組主体　：減災対策協議会　　取組参加機関：河川管理者・自治体職員
対象　　：開催自治体の防災士等　参加人数　　：約 20 人（1 講座当たり）

当日の流れ

総時間：２時間

	講座内容	支援の方法・ポイント等
10:00 ～ 10:10	**1. マイ･タイムラインの有効性を学ぶ** **2. 大河川･中小河川･その他河川･土砂災害などのリスクとマイ･タイムラインとの関係**	
	1.マイ･タイムラインの有効性を学ぶ 2.水害リスクの多様さとマイ･タイムライン検討の位置づけを学ぶ	◇マイ･タイムラインがある場合とない場合での違いをアニメ動画で放映し、わかりやすく伝える。 〔下館河川事務所で提供されている動画を使用〕 ◇住民にとっては、大河川の氾濫だけが水害リスクではないことを伝えつつ、マイ･タイムライン検討を行う際に、対象とする水害リスクを参加者に明確に伝える。

	講座内容	支援の方法・ポイント等
10:10 ～ 10:40	**1.自分たちの住んでいる地区の洪水リスクの把握の仕方を学ぶ ・浸水深／浸水継続時間／家屋倒壊等氾濫想定区域の確認 2.地区の地形や土地の成り立ちと河川との関係を知るための手段を学ぶ。**	
	1.ハザードマップ・浸水想定区域図を用いて、自分たちの住んでいる地区の洪水リスクの把握の仕方を学ぶ。 2.自分たちの住んでいる地区の洪水リスクに関する地形特徴や河川との関係を知るための手段を学ぶ。	◇想定最大規模降雨に応じた洪水ハザードマップや洪水浸水想定区域図を用いて洪水リスクを自ら確認させる。 〔ハザードマップ・洪水浸水想定区域図使用〕 ◇居住地の浸水深を確認させ、数名に答えてもらう。 ◇自身の浸水深を踏まえて、水平避難か屋内安全確保かを参加者に尋ねる。 ◇浸水継続時間の説明を行い、居住地の浸水継続時間を確認させ、数名に答えてもらう。 ◇家屋倒壊等氾濫想定区域の説明を行い、居住地の浸水継続時間を確認させる。 ◇国土地理院の治水地形分類図や色別標高図により、洪水リスクを確認する方法を知ってもらう。 ◇河川の水位と自身の居住地とを横断図で見てもらうことで、河川水位と自身の居住地との関係性を知ってもらう。 〔国土地理院の地理院地図使用〕 〔逃げキッド動画使用〕
10:40 ～ 11:00	**1.避難行動について学ぶ。**	
	1.避難行動の種類について学ぶ	◇水平避難、屋内安全確保を知ってもらう。 ◇行政が指定する避難所への避難の他に、浸水想定区域外への親戚や友人宅への避難もあることを知ってもらう。

	講座内容	支援の方法・ポイント等
11:00 ～ 11:30	**1.洪水時に得られる情報とその取得手段を学ぶ。**	
	1.洪水時に得られる情報と取得の仕方を知り、取得方法を体験し、学ぶ。	◇洪水時に得られる情報を教え、実際に講座内で取得してもらう。 ◇自身が見るべき水位観測所の水位を自身のスマートフォンやタブレット等で確認してもらう。 ◇インターネットが利用できない情報弱者にも河川水位の情報の仕方を知ってもらうために、d ボタンの扱い方を会場のテレビで実際に使い、教える。
11:30 ～ 11:45	**1.マイ・タイムラインの作成を体験する。**	
	1.自身の行動を考え、マイ・タイムラインを作成	◇主な防災行動を時間軸で整理し、マイ・タイムラインを作成。
11:45 ～ 12:00	**1.隣の方とマイ・タイムライン作成を模擬体験する**	
	1.隣の方とマイ・タイムライン作成を模擬体験	◇ここまで学んできたマイ・タイムライン作成までの手順の一部を事前に配布している「マイ・タイムラインリーダー向け逃げキッド活用ガイド」のシナリオを用いて模擬体験を実施 〔マイ・タイムラインリーダー向け逃げキッド活用ガイドを使用〕

現場での工夫

受講者が今後、マイ・タイムライン作成の支援をできる人材に育つことを期待しているため、「マイ・タイムラインリーダー向け逃げキッド活用ガイド」や逃げキッド動画などを駆使して行うことで、それらのツールの使い方と存在を知り、今後、自身で住民に教える際に役立つことを期待して実施した。

【3】ワークショップを開催するまでの準備

■ワークショップの企画

ワークショップの日時、参加人数と参加者の選定、会場の決定などの概要を企画する。自治体の中でも水害リスクが高い地域を優先して実施することが望ましいため、ハザードマップ等から、浸水深が深い区域や家屋倒壊等氾濫想定区域、浸水継続時間が長い区域等から、マイ・タイムラインの検討地区を選定する必要がある。

■河川管理者等の有識者との調整

マイ・タイムラインの検討には、地域の水害リスクの説明が重要である。地域の河川特性を知る河川管理者等の有識者と協力して、ワークショップを行うことは住民に水害リスクを的確に伝えるには有効な方法である。そのため、**自治体内を流れる川の河川管理者と相談し、ワークショップの開催への協力や情報提供などを依頼する**ことを推奨する。またワークショップでは、防災の専門家や豪雨被災者の方等に参加いただくことで、より水害に対する理解を深めることができるため、それらの有識者に講師の依頼をすることも有効である。なお、出演依頼を行うには、講演の内容や日程の調整、当日の宿泊費・交通費などの精算方法についても交渉する必要がある。

河川管理者が水害リスクを説明

気象予報士が講師を実施

■会場の手配

ワークショップ開催には、参加人数に応じた会場の手配が必要となる。日時や人数が決定したら、会場の予約を行う。会場は、参加住民が来場しやすい場所を選ぶことが大切である。また、ワークショップには机と椅子が必要なため、それらの設備がある場所が望ましい。

机と席の配置例

■資料等の準備

ワークショップに必要な資料等は、以下のとおり。

□「逃げキッド」などのマイ・タイムライン作成ツール

（なお、「逃げキッド」は、国土交通省のＨＰからダウンロードできます）

□洪水ハザードマップ

□筆記用具（各自で持参してもらうのでも可）

さらに、以下のような資料も用意できれば、参加者の理解を促すことに繋がる。

□講座を実施する地域が含まれる①浸水想定区域図、②浸水継続時間図、③家屋倒壊等氾濫想定区域図（ハザードマップに記載されている場合は不要。）

□タブレットやスマホ（河川水位などの情報をインターネットで閲覧するため）

□視聴覚用の器材（動画再生用のパソコン、プロジェクタ、スクリーン）

□名札（お名前を知らない住民同士がワークショップで議論しやすいように）

■役割分担の設定

ワークショップ当日は、司会進行、説明者、受付、記録係、さらにマイ・タイムラインの検討を支援する住民サポート役などを配置して進行していくことを推奨する。

役 割	担 当 す る 人 数 の 目 安
司会進行	1名
説 明 者	1名～3名 各 STEP で分担するなどの工夫も可能
受付	1 名～2 名
記録係	1 名
住民サポート役	参加者 5 名～7名に対して、1名配置

住民サポート役

■参加者の案内・出欠確認

住民への周知は前もって行い、出欠の確認を行う。ワークショップ当日までに、参加者名簿を作り、各テーブルに誰が座るかがわかるように座席表を作成する。また、テーブル上に、地区名を記載したスタンドなどをおくと、当日の配席がスムーズに進む。

【4】ワークショップを支援する資料等の紹介

■マイ・タイムラインの概要を説明した動画

イメージ	内　容／取　得　先
	【マイ・タイムラインの概要を説明した動画】 「マイ・タイムラインで逃げ遅れゼロ～洪水から自分の逃げ方を考えよう～」（4 分 18 秒） **国土交通省関東地方整備局下館河川事務所マイ・タイムラインポータルサイト** https://mytimeline.river.or.jp/

■マイ・タイムラインの骨格を作成できるツール「逃げキッド」

イメージ	内　容／取　得　先
	【逃げキッド】 マイ・タイムラインの骨格を手軽に作ることができるツール **国土交通省関東地方整備局下館河川事務所マイ・タイムラインポータルサイト** https://mytimeline.river.or.jp/

■「逃げキッドの使い方動画」

イメージ	内　容／取　得　先
	【逃げキッドの使い方に関する動画】 逃げキッドの使い方については、動画で紹介している。 **国土交通省関東地方整備局下館河川事務所マイ・タイムラインポータルサイト** https://mytimeline.river.or.jp/

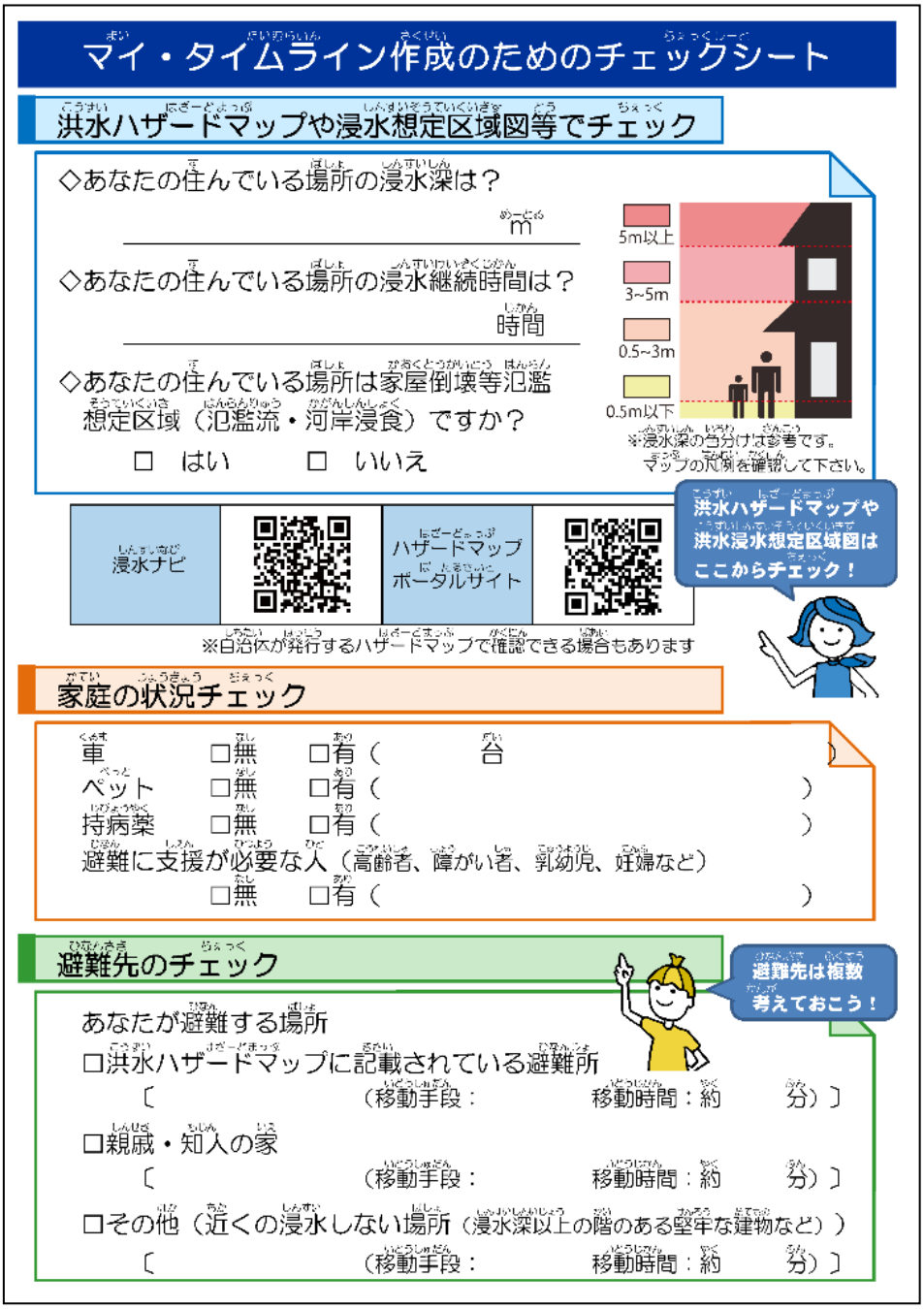
■逃げキッドのシナリオ本「**逃げキッド活用ガイド**」

イメージ	内　容／取　得　先
	【逃げキッド活用ガイド（台本）】 逃げキッドに封入されている資料一つ一つを説明できる台本。マイ・タイムラインを検討していく際の留意事項と講座をより良くするための話し方の工夫や解説する際のシナリオ例の解説、講座の工夫を取りまとめられている。 https://mytimeline.river.or.jp/document/nigekido_guide.pdf

【参考資料】逃げキッドの使い方概要

本節では、マイ・タイムラインの骨格を簡易に説明する際のシナリオの例（読み原稿）を記載しています。講座を開催する際に、このシナリオを読んでいくことで、講座を進めることができるため、ご活用されたい。

資料：マイ・タイムライン作成のためのチェックシート



資料：マイ・タイムライン作成のためのチェックシート

■説明のための読み原稿（シナリオ例）

はじめに、自分たちの住んでいる地区の水害リスクを確認していきます。

「マイ・タイムライン作成のためのチェックシート」を出してください。
《参加者がチェックシートを見つけられたか確認します》
チェックシートの上の段に、皆さんが住んでいるところの浸水の深さを記入する欄がありますので、ここを埋めていきましょう。

自分が住んでいる地区の水害リスクは、浸水想定区域図やハザードマップを見て、確認することができます。
また、QR コードがありますが、市や県からインターネットで提供されている情報もあるので、あとで確認をしてください。
今日は会場を代表地点として、一緒に確認していきましょう。
《参加者がハザードマップを確認する時間をとります》

この会場の浸水の深さは○○mとなっています。
例えば浸水深の深さが 3m 以上の場合は、2 階に逃げても水に浸かってしまいます。災害発生前の早めの避難が必要です。

また、浸水の深さが深くなくても、浸水する時間が長期間だと、トイレなどのライフラインが使えない可能性もありますので、自宅の 2 階に留まろう、と思った方は、ある程度の期間、生活できる準備をしておくことが必要ですね。

次に、チェックシートの中央の段、オレンジ色の部分をみてください。
家庭の状況チェック、とあります。
例えば、車の有無は避難方法に関係してきますし、車が複数台ある場合は、
避難に使わない車を事前に高台に避難させておくことなどを、事前の行動として考えておく必要が出てきます。
また、「持病薬」を記載する欄がありますが、これは、毎日飲まなければいけない薬がある場合、台風などでは病院も休業したり、万一被災した場合には何日も休業してしまう可能性もあるので、事前に多めにもらっておくなどを考えておくことも必要なので、チェックリストに入っています。
こちらも一人ひとり違うので、現在の状況を書きこんでみて下さい。

最後に、チェックシートの下の段、緑色の部分をみてください。
避難先のチェックになります。

ハザードマップに記載されている避難所、親戚・知人の家、その他と記載する欄がありますので、ご自分が考える避難場所の具体な名称と、必要な移動時間を書いてみてください。

最近の水害では、例えば避難所がいっぱいで受け入れてもらえなかったなどの状況も発生しています。ペットをお持ちの方も、避難先の条件を調べておく必要もありますね。
考えておいたところがだめだった時の次の矢を持っておくことが、落ち着いた行動につながります。避難先は複数考えておくことが大切ですので、全て記入してみてください。
すぐに思いつかなくても、後で家族で相談してもよいと思います。

資料１：「台風や前線が発生」してから「川の水が氾濫」するまでを知ろう！！」

資料１：「台風や前線が発生」してから「川の水が氾濫」するまでを知ろう！！」

■説明のための読み原稿（シナリオ例）

資料１を見てください。

安全に避難するためには、「どんな行動をするか」ということとあわせて、その行動を「いつするのか」が重要になってきます。
そのため、まずは背景となる、「台風や前線が発生」してから「川の水が氾濫するまで」に、川でどんなことがおきているかを確認していきましょう。

上から順番に進んでいきます。①氾濫が発生する３日前のところに台風や前線が発生」と書いてあります。台風が接近すると「南の海で台風●号が発生しました」というような報道がされます。このときはまだ、雨や風の影響は出ていません。

次に「②台風や前線が近づいて、雨や風がだんだん強くなる」と書いてあります。
雨や風が強くなってくると、出かけるのが大変になってきます。

その次、氾濫が発生するだいたい半日前くらいには「③雨が集まって、川の水がだんだん増える」という状況になります。ここで注意して欲しいのは、皆さんがいるところで雨が降っていなくても、川の上流で雨が降れば、その水が流れ下ってくるので、川の水は増え続けるということです。
そして「④激しい雨で、川の水がどんどん増えて、河川敷にも水が流れる」と書いてあります。④の写真のように、川の水が増えて隠れてしまった河川敷には、普段は水が流れていませんが、雨が激しくなって川の水が増えてくると、河川敷によくあるグラウンドなども川の流れで見えなくなります。

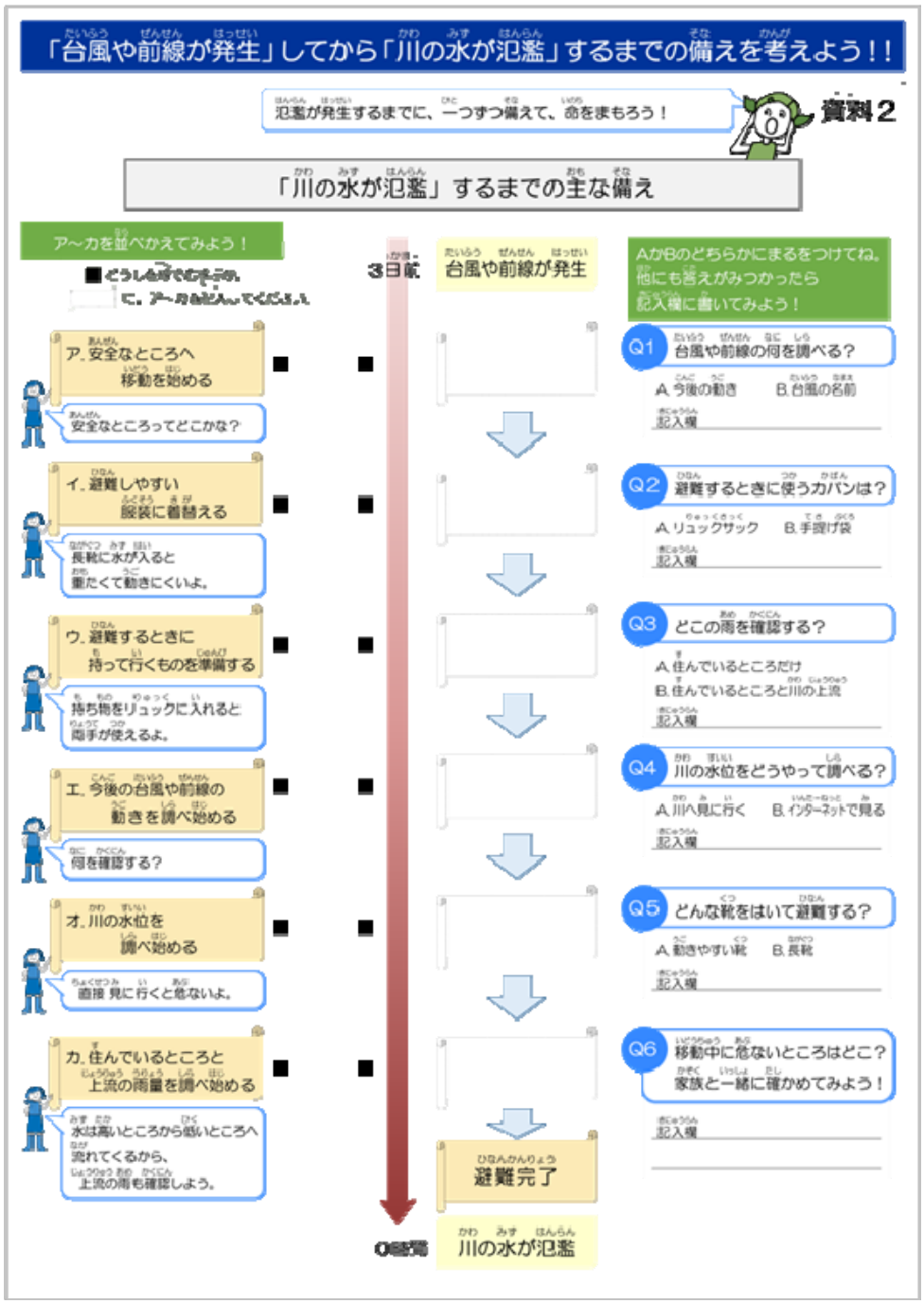
その後さらに雨が降って水が増えると「⑤川の水がいっぱいであふれそう」になり、
最後、「⑥川の水が氾濫」と書いてありますが、川から水があふれて、街が水浸しになってしまいます。

一番左の矢印を見て下さい。⑥の「川の水が氾濫」のところがゼロ時間となっていて、上にいくと⑤が３時間前～５時間前、④が７時間前、ずっと上に行って、①が３日前となっています。

これは、氾濫するだいたい何時間前か、何日前かを目安として表していて「台風や前線が発生」してから「川の水が氾濫」するまで、概ね３日間となっています。

このように、洪水は地震のように突然おきるものではなく、時間を追って進行していくので、準備する時間があるということを知っておいてください。

資料２:「台風や前線が発生」してから「川の水が氾濫」するまでのそなえを考えよう！！」



資料２:「台風や前線が発生」してから「川の水が氾濫」するまでのそなえを考えよう！！」

■説明のための読み原稿（シナリオ例）

これまで、「台風や前線が発生」してから「川の水が氾濫」するまでの流れと、氾濫した場合のリスクを知っていただきました。

ここからは、どうすればうまく逃げられるか資料２を使って考えていきましょう。
資料 2 を用意してください。

オレンジの枠が左側に並んでいます。上から順に見ていきましょう。

〔　ア～カに記載している内容を一つ一つ読み上げる　〕

と、なっています。
このアからカは、台風や前線が発生してから、避難完了するまでに最低限やっておかなければいけない備えですが、順番がバラバラで並んでいます。
どの順番で何をするかを考えて、並び替えてみてください。

《参加者が並べ替えの作業をする時間をとります　〇分》

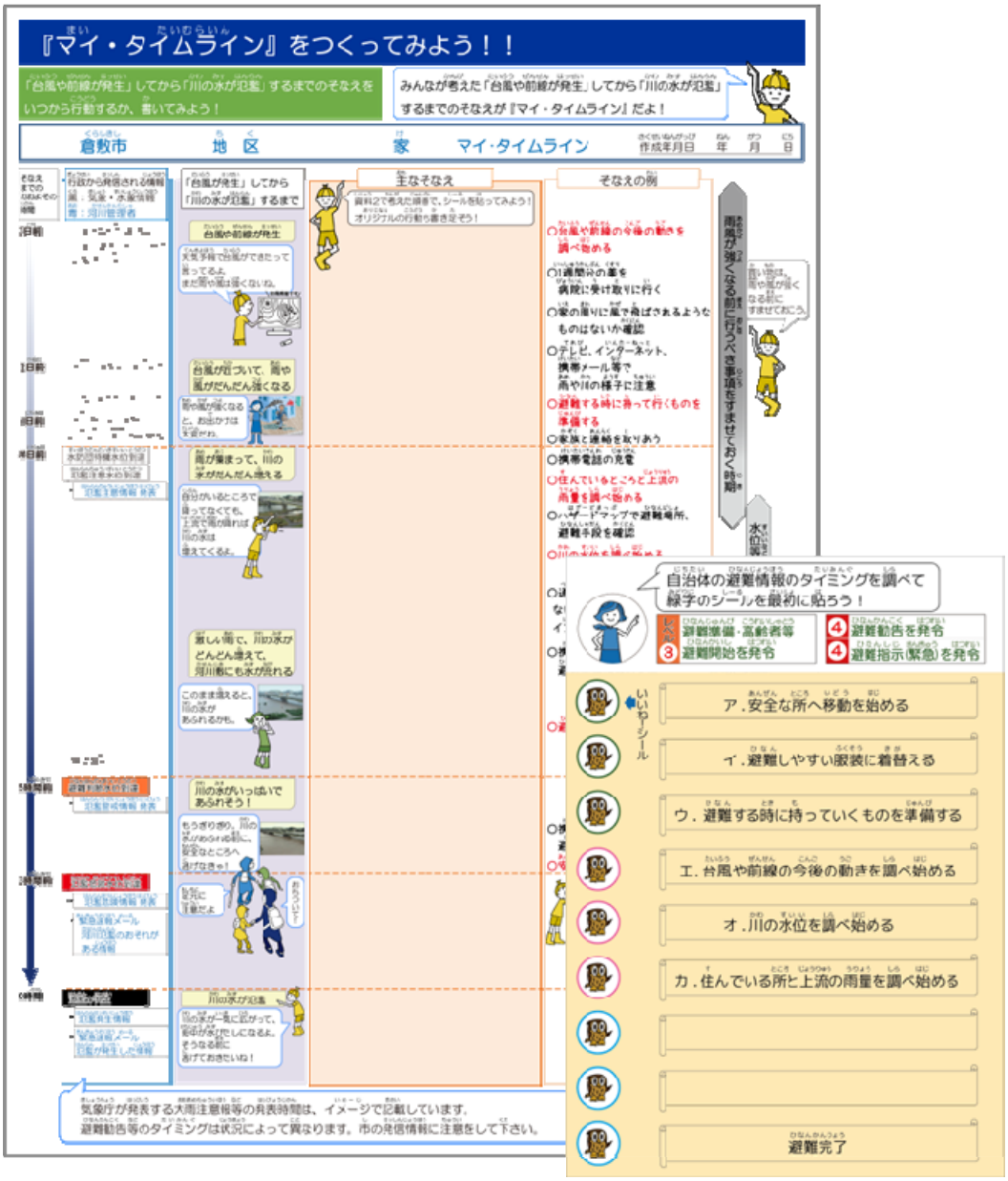
さあ時間になりました。皆さんいかがですか？

私が考えた順番を発表します。まず、台風や前線が発生したら、今後どうなるかが気になるので「エ　今後の台風や前線の動きを調べ始める」をいれました。

次に、雨や風が強くなってしまうと、外に出かけることができないので、「ウ　避難するときに持っていく物を準備する」を入れました。
そして３番目と４番目は、先ほどの資料１で勉強したとおり、雨が降って川の水が増えるので、先に「カ　住んでいる所と上流の雨量を調べ始める」「オ　川の水位を調べ始める」の順に入れて、その次に「イ　避難しやすい服装に着替える」をやって、「ア　安全な所へ移動を始める」としました。

違う人もいると思いますが、私のこの順番が正解というわけではありません。あくまで私が考えた順番です。自分自身の状況を考えて並び替えすることが重要であるため、「間違い」はありません。

資料３：「マイ・タイムライン」をつくってみよう！！」



資料３：「マイ・タイムライン」をつくってみよう！！」

■説明のための読み原稿（シナリオ例）

ここまででみなさんは、「川の水が氾濫」するまでの様子と、その時に「どんな備えをすればいいのか」を知ったことになります。
それでは最後に、勉強してきたことを思い出しながらマイ・タイムラインを作成してみましょう。
マイ・タイムラインを作ってみようというシートと、シールを出して下さい。

まず、シートの左から二列目の紫色の欄を見てください。先ほど説明した「台風が発生」から「川の水が氾濫」までが書いてあります。
また、一番左には、行政から提供される情報が書いてあります。例えば、３時間前には、氾濫危険情報発表や避難勧告発令などが書かれています。

まずは、シール上の方。緑の文字の「避難準備・高齢者等避難開始」と「避難勧告」「避難指示」のシールを貼ります。
これは市の方で決まっています。一緒に貼っていきましょう。

次に、真ん中のオレンジの空欄のところ、「主なそなえ」とあるところに「避難完了」のシールを貼りしょう。いつまでに避難を完了していた以下、が重要です。

これを貼れた人は、先ほど並び変えた防災行動ア～カのシールを貼っていきましょう。
このとき、どのタイミングにシールを貼るのかがとても大事です。
紫色の欄で台風や雨や川の水がどうなっているのかを見て、いつその行動を行うのか考えてみましょう。

《参加者がシールを貼る/書き込む時間をとります　〇分》
アからカのシールを貼れた人は、空欄のシールにオリジナルの備えを記入して貼りましょう。

例えば、携帯電話の充電とか、常用薬をもらいに行くなどやらないといけないいろいろな行動が考えられると思います。
先ほどのチェックシートの、「家族の状況」に記載をした方は、その内容を踏まえた行動も追加してください。
シールが足りない場合は、台紙に直接手書きで記入しても良いです。

（時間を見ながら）
それもできた人は、持って行く物や避難先、避難方法などを書き込んでいきましょう。

時間になりましたのでここで作業を終了したいと思います。いかがだったでしょうか。
これで皆さんもマイ・タイムラインを手に入れたことになります。